

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス武雄教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている。事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮を行い、利用児童が過ごしやすい環境となっている。また、死角になる箇所が少なく、児童の様子を見渡せるため、目が届く。	R5年度8月より施設移転を行い(新築戸建て)以前より療育室も格段に広がっている。児童からも保護者からも非常に好評。室内は完全バリアフリー可されている。居室は療育室を中心に静養室・相談室・水回り等、明確に分かれており、児童は視覚情報で理解出来る構造になっている。安全性には十分に配慮出来ている。	個室は療養室と相談室があるが、複数の児童が同時に不安定になった際は個別に使用できる部屋数としては少なく感じる可能性がある。療育室内にパーティション等で区切った視覚を遮る空間を瞬時に作れるよう準備したい。
2	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、知り得た情報や気付いた点等を情報交換・共有することでより良い支援へ繋げている。	毎朝必ず申し送りをし、振り返りと確認を行っている。パート職員に関しては午後出勤後に管理者が本日の予定や午前中の出来事を伝えている。支援終了後には当日の振り返りを行い、情報交換・共有を行っている。また休みのスタッフには翌日直接伝えるか資料作成し観覧BOXに入れ自信で確認してもらい伝え忘れが無いよう工夫もしている。	支援について細かい話し合いは行っているが、内容を忘れてしまう事も稀にある。職員同士で協力し合い、支援内容の理解を深めてはいるが、より理解するために朝の申し送りと、送迎前に再度申し送りの場を設けたが良いか検討中。
3	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)は細かく行っている。 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応し、個人情報の取扱いにも十分留意している。	時間割表の確認を中心に時間や行事を把握しているが、突発的な時間変更などは連絡を忘れる保護者もいる為、必要に応じて学校へ直接確認する事も多い。苦情窓口・担当者も設けており、苦情があった際には迅速に対応できるようにしている。また、個人情報個別ファイルは鍵付きの書庫にて保管し漏洩防止に努めている。	学校からの時間変更などのメールは保護者にしか届かない為、保護者からデイへの連絡をお願いしているが、実行できない保護者も多いため、今以上に細かい連絡を取り合う。当日の様子は主に送迎引き渡し時に状況を伝え、それ以外でも電話やメールを活用し共通理解を図っている為、今後も続行。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催・保護者同士で交流する機会を設ける場の提供は実地していない。	一部の保護者からは『保護者会』を開催希望の声もあるが、特に希望しない又は他の保護者同士との交流は極力避けたいため開催は望まないなどの意見がある。双方の意見をまとめる事は難しいため、必要に応じて面談を行い相談出来る場面を作っている。	保護者会を開催して欲しいと希望する意見もあるが、現状行っていない。支援の様子を見学等する事は基本自由としている。個別に交流を図る保護者もいる。電話やメール等での相談は常時対応し保護者様の不安軽減に努めている。
2	(自立支援)協議会等に参加する回数が少ないと感じている。こども支援部会やセミナー等のお知らせがメールや手紙で届くが、出席するのは主に管理者(児童発達支援管理責任者兼任)である為、自身の仕事量と時間と照らし合わせて参加の有無を決めているが、出席回数としては少ない。	各部会など早めの連絡を頂けるため、調整を行えばよいのだが、日々の業務を優先すると時間確保が難しい。自身の事務作業に加えて、各相談支援事業所の担当者とのモニタリングや支援会議等、様々な業務があり効率化を図り時間を作る必要がある。	各部会に参加する代表者を決めるか、交代制にし、可能な限り参加できる環境を作る。参加することにより他事業所との交流にもある為、情報交換の良い場となる。
3	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会は設けていない。	こどもの発達障がいや特性に応じた具体的な関わり(褒め方・指示の出し方・課題行動への対応)はしており、保護者への学びと保護者のストレス軽減に努めているが、プログラム化はしていない。	ペアレントトレーニングプログラムは作成してないが、家庭と連携した支援を目指し接し方の共有を図っている。指示は短く具体的に伝え、成功体験を積みませ褒めていく事を家庭と協力して行く。